

の管理システムと自動運転車両  
を連携させ、トラックバースの  
予約情報に基づき、車両を目的  
地バースまで自動で誘導する施  
設内誘導や、インフラカメラで  
検知した周辺車両情報を活用す  
る安全走行支援の実現可能性を  
検証する。  
具体的には、物流施設内に設

## 醍醐倉庫

### 「道々橋の蔵出し市バザール」を開催

#### フォークリフト操作体験も人気に



醍醐倉庫  
（本社・東  
京都大田  
区、醍醐正  
明社長）は  
17日、第23  
回「道々橋  
の蔵出し市  
バザール」  
を開催し  
た。荷主の  
滞留在庫を

し、スタッフが見守るなか、運転席でパレ  
ットの上げ下げを実際に体験するというも  
ので、参加した子どもは「楽しかった」と  
笑顔を見せていた。

醍醐社長は、「地域の人たちに喜んで  
もらうため、従来は餅つき大会を行っていた  
が、コロナ以降、中断していた。他に何か  
できることがないかを社員と考え、昨年、  
子ども向けにスーパーストック操作体験  
を行ったので、今回はフォークリフト操作体  
験を初めて行うことになった」と経緯を説  
明する。

地域の人たち向けにリーズナブルな価格で  
販売する恒例のイベント。今回は新たな試  
みとして、子ども向けのフォークリフト操  
作体験コーナーを設けた。  
同社は「物流を通して社会に貢献する」  
を企業理念とし、「お客様」「社員」「地域」  
の3つへの貢献を目指しており、バザール  
はそれを体現するもの。荷主の滞留在庫を  
倉庫で販売することで、地域と荷主の両方  
に貢献。毎年10月に開催され、多くの地域  
の人たちが家族連れで訪れるイベントとな  
っている。

会場には、モノづくり大田区からの挑戦  
として知られる「下町ボブスレー」も展示。  
買い物だけでなく、1日を通して楽しめる  
よう、午後からは、ゆきがや太鼓のパフォ  
ーマンス、タイムセール、抽選会などを実  
施。牛串、イカ焼き、フライドポテト、り  
んご飴、焼きそばなど飲食ブースも設けら  
れた。

今回は醍醐倉庫の荷主など7社が出店。  
倉庫の1階荷捌き場スペースに各社が「店  
舗」を設営し、アパレル製品、キッチンゲ  
ッツ、革小物、有名ブランドカメラバッグ、  
焼きのりなどをお得な価格で販売。醍醐氏  
と親交のある、冷凍冷蔵倉庫・総合食品卸  
の千代田も出店し、同社の冷凍食品を販売  
した。

醍醐氏は「普段、倉庫で働いていると、  
外部の人と接する機会は限られている。来  
場者に『いらっしやいませ』と声をかけた  
り、イベントを通じて子どもたちと交流し  
たりすることは、社員にとっても有意義な  
経験となる。

昨年に続いて、子どもが楽しめる「スー  
パーストックすくい」コーナーを設置。また、  
今回初めてフォークリフト操作体験コーナ  
ーを設けた。子ども用のヘルメットを用意

きたら嬉し  
い」と語っ  
た。



子どもたちがフォークリフト操作体験